

# 川上 あさぎ 新聞

Vol.16

2023年第5回  
定例会報告

芦屋市議会

〒659-8501  
芦屋市精道町 7-6

NeXT 芦屋

現場目線で市政改革



川上 あさぎ  
元産経新聞記者

## 教委任命案否決



教育改革を記した高島市長の公約集

芦屋市の教育委員4人のうち1人が任期満了を迎えることを契機に、2023年12月に開催された市議会本会議において市長から新たな教育委員の任命案が提案されました。所属する会派「あしや政風会」はこの任命案に賛成しましたが、賛成少数で否決されました。

### ■教育委員任命案の会派別賛否

政風会	○	維新	×
公明	○	共産	×
至誠会	△	しみの未来	×
		無党派	×

○賛成  
×反対  
△棄権

今回の任命案は市長が訴えてきた「最高の学び」を本市で実現するために提案したものです。公約実現に向け具体的なビジョンを提示した高島市長の姿勢を評価し、賛成しました。以下、賛成した理由を列挙します。

政令市教育長として英語などで学力日本一を達成した実績と手腕▽外部の視点を取り入れることの重要性▽不登校対策としてオンライン教育を活用▽部活動の地域移行による教員の働き方改革▽芦屋市を何度も訪問し、本市の教育事情を知っていること一などを

# 教育改革を止めるな

問題視する声がほとんどでしたが、教育委員4人のうち3人が本市在住在勤。合議制という教育委員の性質上、1人が外部の視点を取り入れることは有効に働くはずで、芦屋の教育に変革をもたらしていく

れるのではないかと期待もありました。また、国の審議会委員など多数の公職を務めていることから、教育委員の仕事に専念できないのではないかと反対意見もありましたが、教育改革を前に進めるためにさまざまな情報を提供してもらえないのではないかと思います。何よりも市長の教育改革には市民からも期待の声が多く寄せられていました。

市長は任命案否決を受けSNSで「結果を真摯に受けとめる」とした上で「日本中から最高の人材を招き、改革を進めたいとの考えは変わらぬ」と発信。芦屋の未来を創るために教育改革を後押ししていきたいと考えています。

## 子ども医療費 高卒まで拡充

子ども医療費助成について7月から、所得制限を廃止し、高校卒業時まで助成対象とすることが決まりました。現行は中学卒業時まで助成対象ですが、所得制限がありました。

私も2022年12月議会で所得制限の廃止を訴え、高島市長は選挙公約で掲げた高卒時までの子ども医療費助成拡充を早くも実現することになりました。助成対象者は現行の6944人から約1万4900人に拡大、助成額は年間約2・2億円を見込んでいます。

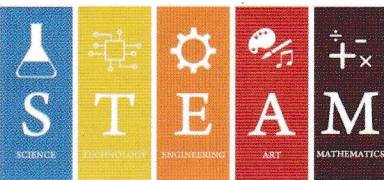
## ごあいさつ

第5回定例会では子ども医療費拡充を含む一般会計補正予算案や教育委員の任命に関する議案(否決)などが審議されました。閉会後には2021年末に起きた小学校のいじめ事案が明るみになり、問題が浮き彫りになりました。今回は本会議や委員会での議論を中心に報告します。

## 児童・生徒の探求心向上へ

### STEAMS教育

市の教育施策の基本となる「教育大綱」では「なぜ学ぶのか」を自分なりに納得した上で自発的・自律的に学べる環境づくりが掲げられ、「STEAMS教育」導入が指摘されています。文系・理系などの枠にとらわれず、課題の発見・解決や社会的価値の創造に結びつけるもので、一般質問で市長の見解を問いました。これまでの「先生が教え、生徒が覚える」という学びでは人工知能(AI)を使いこなせる人材は育たず、働きかけてまいります。



STEAMS(STEAM)教育 文系や理系の枠を横断して学び、問題を見つける力や解決する力をはぐくむ21世紀型の教育システムで、各国で採用されている。科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術(Art)、数学(Mathematics)の頭文字を組み合わせた造語で、本市ではスポーツ(Sport)を加え「STEAMS教育」とした。

# LGBT法成立で課題



LGBT理解増進法が可決・成立し、性の多様なあり方を互いに受け入れられる共生社会の実現を目指す。性的少数者の方々が生きづらさを抱えてしまうこととはあつてはなりません。身体的特徴で判断されてきたものが変わってしまうのではとの声もあり、防犯上の観点から女性トイレなど「女性専用スペース」の堅持を求めました。

現在、女性専用スペースが姿を消しつつあります。東京都渋谷区に新設された公衆トイレは、4つのうち

# 女性専用スペース堅持を

2つが男性トイレ、残り2つが性別に問わず使用できるトイレ、つまり女性トイレがない状態です。芦屋市役所には男女別トイレとバリアフリートイレが存在し、市は「男女別を廃止する考えはない」と答弁。公園にはバリアフリートイレ以外で男女別になっていないトイレが6カ所あります。建替の際には男女別とすることも確認しました。

市立あしや温泉における対応も課題です。他県で「心は女性」とする男性が女湯に侵入し、逮捕されたことでもあります。国はトランスジェンダーの女性（性別は男性だが、性自認は女性）が女湯の利用を求めても、身体的特徴をもつて判断し、断ることを容認する通達を行っており、通達の周知も確認しました。

男女別トイレがなくなる傾向も  
東京都渋谷区

LGBT理解増進法をめぐっては言論機関たる新聞でも賛否が分かれています。ホームページによると産経新聞は「このままでは、女性を守ることに難しい。女性だと自称する男性が女性専用スペースに入ることを正当化しかねない」という懸念は、依然払拭されてい

## 言論界も異論

い（2023年6月19日付）、読売新聞も「悪意のある男性」が女性専用スペースに入っても「LGBT法を盾に『不当な差別だ』と反論されかねない」（同18日付）。一方、朝日新聞は「数々の修正が加えられ、理念は大きく後退」（同14日付）としています。

## 質問テーマが SNS 流出

「女性専用スペースについて」とする一般質問テーマが公表前にSNSに流出するという前代未聞の事態も発生しました。卑劣かつ卑怯な手法で質問妨害を図ったとみられます。

質問テーマは市議会事務局に通告、議員ら市関係者にのみ共有されます。その後、市ホームページで公表前にX（旧ツイッター）で「芦屋市議会で自民党議員が『女性スペース』について質問するというタレコミをキャッチ。トランスヘイト議連の地方活動と思われる」などと投稿。発言が一部切り取られて問題視されることに気を使い、質問の際には表現方法を修正するなど慎重を期しました。

議会において、このような事態が発生したことは遺憾と感じざるを得ません。

## 言論妨害につながる恐れ

### 女性専用スペース巡る一般質問内容がSNSに流出 兵庫県芦屋市議「妨害されかねない」

2023/12/23(土) 14:45 更新 36人 困産経新聞

今年6月に施行されたLGBTなど性的少数者への理解増進法への対応を巡り、兵庫県芦屋市議会で女性用トイレなど「女性専用スペース」の確保策を取り上げた自民党市議の質問テーマが、市議会のホームページで事前公表される前にSNSに流出したことが分かった。市議は、匿名テーマの漏洩は過去に確認されたことがない」と指摘。「質問妨害を図る卑劣な手法で、言論弾圧になりかねない」と問題視している。

自民の川上朝栄市議は12月11日に行われた市議会一般質問で、理解増進法に盛り込まれた「全ての国民が安心して生活することができる」の条文について市の見解を尋ねた。市内の公共施設で女性用トイレの堅持も訴えた。

### ニュースにもなった

## 編集後記

元日に発生した石川・能登半島地震。正月気分を突如襲った最大震度7の揺れは、街並みを破壊し多くの命を奪った。被災地の惨状やボランティア活動の様子を見るにつけ、「何かやらねば」とそわそわする人や、「苦しんでいる人がいるのに、自分は普通にしてはいけない」と思う優しすぎる人もいるだろう。歯がゆい気持ちもわかるが、仕事や勉強などまずはやるべきことをこなし、日本を支えよう。頑張って普通に暮らすことが、国や地域の発展、復興につながると信じて。

### かわかみあさえ【川上朝栄プロフィール】

1973年12月生まれ、50歳。妻と娘2人の4人家族。岡山自陵高を経て学習院大経済学部卒。産経新聞に記者として入社、内閣府など政治経済の現場を取材。著書に「関西企業大研究」「達人の世界」。社会福祉法人「尚紫会」理事。社会福祉主事、介護職員初任者。趣味はテニス、スキー、高校野球観戦。



e-mail : kawakamiasae@gmail.com HP : https://kawakami-asae.com



Facebook



X (Twitter)

防災士資格を取得  
芦屋市では地域防災力の向上を目指し、防災士の養成に取り組んでいます。私も昨年末、防災士資格取得試験に合格し、防災士としての活動を始めました。

30年以内に70〜80%の確率で発生するとされ、カウントダウンに入ったとしてもいえる南海トラフ地震は、本市でも最大津波水位が5m、最大震度6弱以上の揺れが発生するといえます。まずは避難場所の確認など自らの命を守る準備を行いましょ